

令和2年度 河川魚類等調査・採集委託 報告書（概要版）

調査の概要

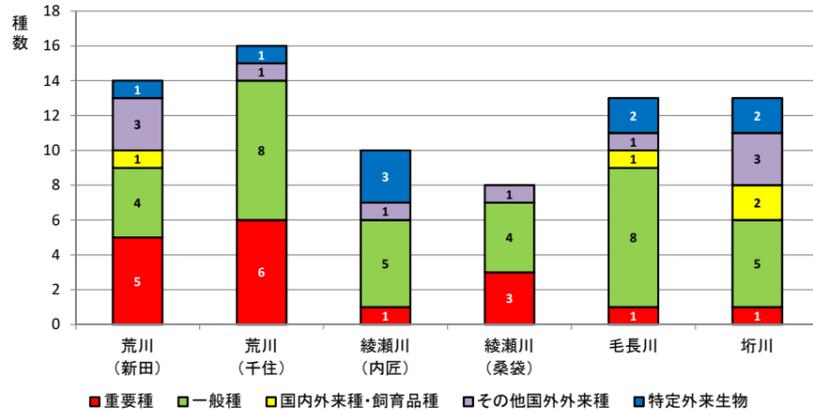
【目的】足立区内の河川に生息する魚類等の生物の把握。
 【調査地点】足立区内の4河川6地点。（右図参照）
 【方法】投網、タモ網、小型定置網、刺網、カゴ網などを用いて、魚類の任意採集を実施しました。
 綾瀬川の2地点では、底生動物の採集も実施しました。



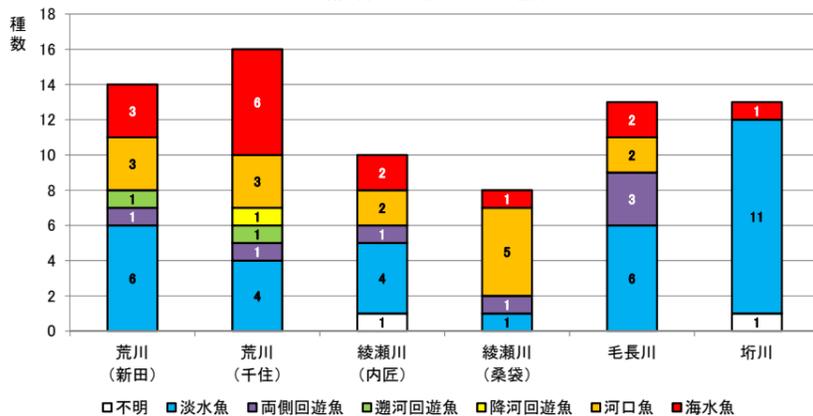
結果の概要

- 合計9目14科33種の魚類が確認されました。
- 重要種（環境省RLなどの該当種）は8魚種でした。
- 国外外来種は8魚種（このうち4魚種は特定外来生物）、国内外来種は1魚種、飼育品種は1魚種でした。
- 確認魚種の最も多かった地点は荒川の千住新橋緑地わんど広場（16種）、最も少なかった地点は綾瀬川の桑袋ビオトープ公園付近（8種）でした。
- 確認魚種の生活型は、圀川では淡水魚の占める割合が高かったですが、ほかは様々なタイプの生活型がみられました。
- 底生動物（綾瀬川のみ実施）は56種類が確認され、4種が重要種、8種が国外外来種（うち1種が特定外来生物）に該当しました。

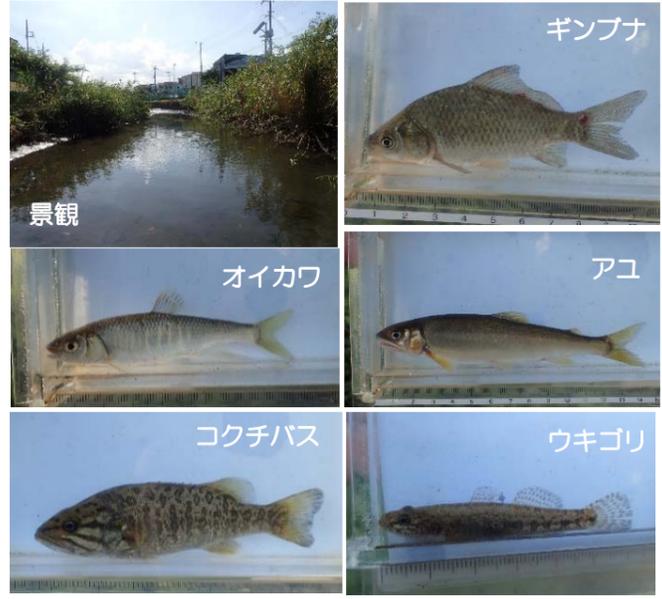
魚類 調査地点別の確認種数



魚類 生活型別の確認種数



毛長川（ふれあい橋上流付近）9月3日/4日 晴れ/晴れ
 【環境】本調査地点中、最も上流に位置します。植物が多く生育し、瀬・淵の形成もみられます。
 【確認種】ギンブナ、**タイリクバラタナゴ**、オイカワ、**スゴモロコ**、アユ、ボラ、**カダヤシ**、スズキ、**コクチバス**、マハゼ、シモフリシマハゼ、**アマチチブ**、ウキゴリ 計13種



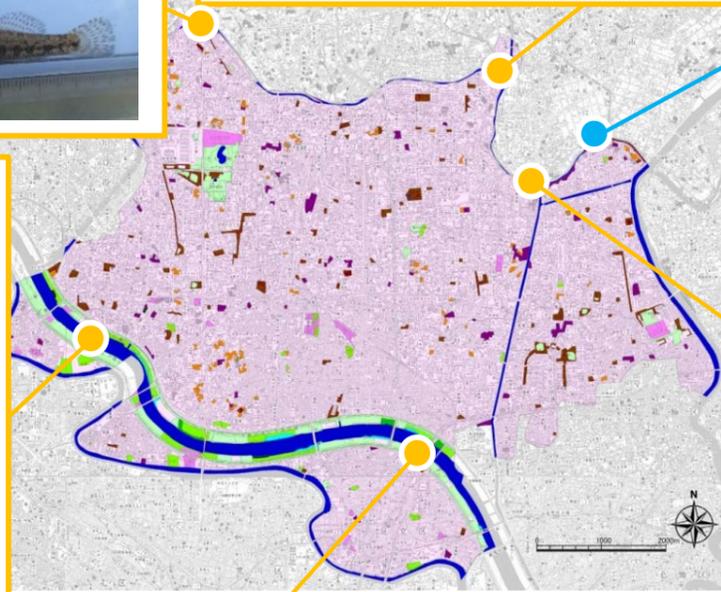
綾瀬川（桑袋ビオトープ公園付近）
 7月7日/8日 曇り/曇り
 10月1日/2日 雨のち晴れ/晴れ
 【環境】直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。干潮時には一部で泥干潟が干出します。
 【確認種】**ハクレン**、スズキ、マハゼ、**アシシロハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ**、**チチブ**、ウロハゼ 計8種
 （底生動物）ヒメタニシ、**カワヒバリガイ**、**アマガイ**、**テナガエビ**、**モクスガニ**、アメンボなど 計42種



圀川（葛西用水合流地点）
 9月2日/3日 晴れ後雨/晴れ
 【環境】両岸とも直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。
 【確認種】**コイ**（飼育型）、ギンブナ、**タイリクバラタナゴ**、モツゴ、タモロコ、**ニゴイ**、**スゴモロコ**、ボラ、**カダヤシ**、**メダカ属**（飼育品種）、**ブルーギル**、トウヨシノボリ類、**カムルチー** 計13種



荒川（新田3丁目地先）
 9月3日/4日 晴れ/晴れ
 【環境】ワンドが造成されていて、抽水植物も多く生育しています。干潮時には泥干潟が形成されます。
 【確認種】**コイ**（飼育型）、**タイリクバラタナゴ**、**ハクレン**、**マルタ**、ボラ、**カダヤシ**、**ミナミメダカ**、**メダカ属**（飼育品種）、スズキ、マハゼ、**アシシロハゼ**、**アバハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ** 計14種



荒川（千住新橋緑地）
 9月2日/3日 晴れ後雨/晴れ
 【環境】河岸にワンドが整備されています。抽水植物が多く生育していて、干潮時には泥干潟もみられます。
 【確認種】**ニホンウナギ**、コノシロ、**タイリクバラタナゴ**、**マルタ**、モツゴ、ボラ、**カダヤシ**、**ミナミメダカ**、スズキ、**ロウニンアジ**、ヒイラギ、マハゼ、**アシシロハゼ**、**アバハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ** 計16種



綾瀬川（内匠橋上流付近）
 7月7日/8日 曇り/曇り
 10月1日/2日 雨のち晴れ/晴れ
 【環境】直立護岸となっていますが、一部で泥の堆積と植物の生育がみられます。干潮時には一部で泥干潟が干出します。
 【確認種】**タイリクバラタナゴ**、**チャンネルキャットフィッシュ**、ボラ、**カダヤシ**、スズキ、**ブルーギル**、マハゼ、シモフリシマハゼ、**アマチチブ**、トウヨシノボリ類 計10種
 （底生動物）ヒメタニシ、**カワヒバリガイ**、**テナガエビ**、**クロベンケイガニ**、**トガリアメンボ**など 計36種

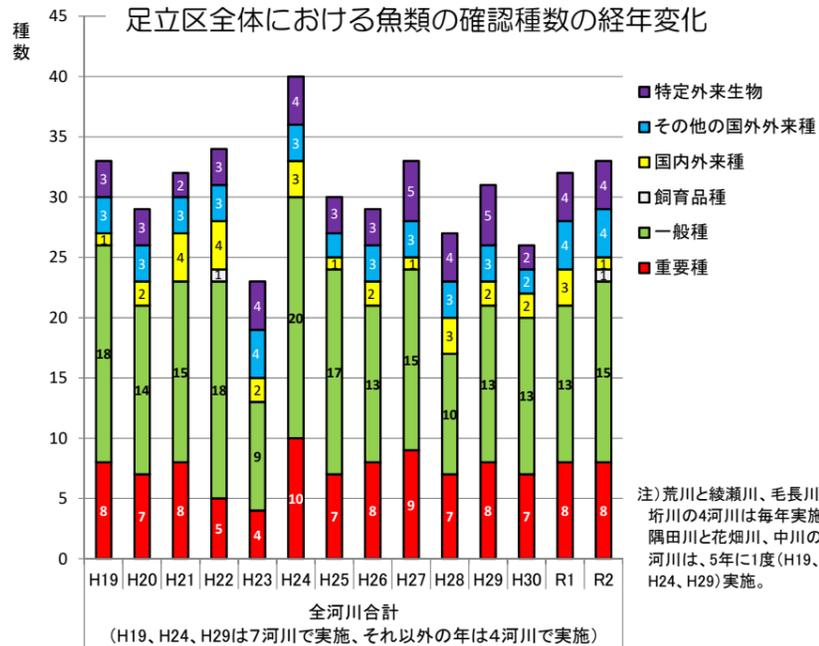


橙色枠の地点：様々なタイプの生活型が多い 水色枠の地点：淡水魚の生活型が多い
 赤色の種：重要種 青色の種：国外外来種（下線は特定外来生物を示す） 紫色の種：国内外来種・飼育品種

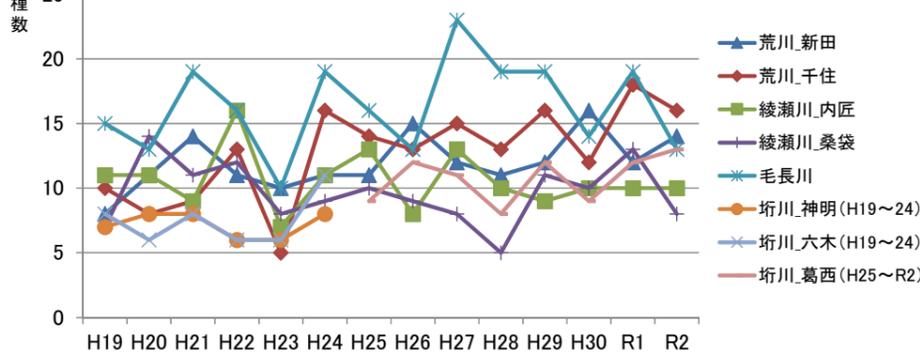
令和2年度 河川魚類等調査・採集委託 報告書（概要版）

経年変化

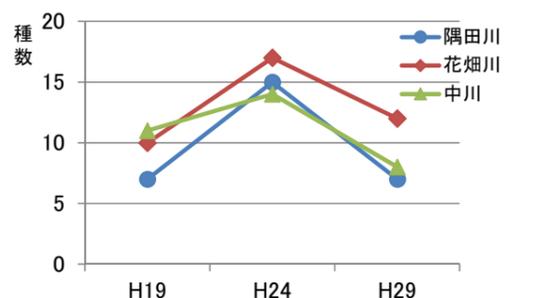
- 今年度までの14年間で合計9目23科54種の魚類が確認されています。
- 重要種はこれまで12魚種が確認されていて、毎年4～10種の間で推移しています。
- 特定外来生物はこれまで5魚種が確認されていて、毎年2～5種の間で推移しています。
- 多様な環境がみられる毛長川は、どの年度も多くの魚種が確認されています。ただ今年度は浚渫工事の影響か、やや減少しました。
- 単調な環境の圀川は、どの年度も確認種数は少ないですが、近年はやや増加傾向がみられます。
- 汽水域の荒川と綾瀬川は、その年の出水などの影響により、確認種数が変動することが考えられます。例えば、出水時は淡水魚の生活型の種が多く確認されることがあります。



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化 (毎年実施の4河川)



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化 (5年ごとに実施の3河川：今年度は未実施)



トピック

飼育生物に由来する外来種が確認されています。

- 今年度確認された外来種の中には、観賞魚やペットの逸出に由来すると考えられるものが含まれていました。
- こうした飼育生物は、野外に放されると外来種となり、生態系に悪い影響を与えてしまいます。
- 飼育している生物は、絶対に野外に放さないようにしましょう。



←近年、観賞用メダカの飼育がブームとなっていて、こうした改良品種のメダカが、しばしば野外で見られます。圀川と荒川で確認されました。

以前はペットとして飼育されていたカメで、現在は特定外来生物に指定されています。荒川で確認されました。



まとめ

- 足立区には、さまざまな環境の河川がみられ、それぞれの河川に特徴のある魚類相が形成されています。
- 調査河川は、海域との連続性は高いですが、周辺水域(池・湿地等の氾濫原)との連続性は低いといえます。今後、より多くの生きものが棲める河川にするためには、池や湿地を再生するような取り組みを進めることが重要となります。
- 外来種対策としては、ペットなどの飼育生物を野外に放さないことが、特に重要となります。



令和2年度調査 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	荒川		綾瀬川		毛長川	圀川	生活型	重要種	外来種			
				新田3丁目地先	千住新橋緑地	内匠橋上流付近	桑袋ビオトープ公園付近	ふれあい橋上流付近	葛西用水合流地点						
				9月	9月	7月	10月	7月	10月	9月	9月				
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		1					降河	国:EN、都:VU				
2	ニシソ	ニシソ	コシロ		92					海水					
3	コイ	コイ	コイ(飼育型)	1						淡水		国外			
4			ギンブナ						4	淡水					
5			タイリクハナタナゴ	3	13		1		2	淡水		国外			
6			ハクレン	1				1		淡水		国外			
7			オイカワ						2	淡水					
8			マルタ	1	11					遡河	都:留				
9			モツゴ		1					淡水					
10			タモロコ						5	淡水					
11			ニゴイ						1	淡水	都:NT				
12			スゴモロコ						70	淡水	(国:VU)	国内			
13	ナマス	アメリカナマス	チャネルキャットフィッシュ				1			淡水		特定			
14	サケ	アユ	アユ						1	両側					
15	ホラ	ホラ	ホラ	29	15	6	1		4	海水					
16	カタヤシ	カタヤシ	カタヤシ	16	14		8		2	淡水		特定			
17	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	3	1					淡水	国:VU、都:CR+EN				
18			メダカ属(飼育品種)	1						淡水		品種			
19	ススキ	ススキ	ススキ	1	8	3		1	2	海水					
20		サンフィッシュ	ブルーギル			2				淡水		特定			
21			コクチバス						1	淡水		特定			
22		アジ	ロウニンアジ		1					海水					
23		ヒラキ	ヒラキ		3					海水					
24		ハゼ	マハゼ	15	6	13		9	2	河口					
25			アシロハゼ	2	7			1	8	河口	都:留				
26			アベハゼ	2	1					海水	都:NT				
27			シモフリシマハゼ	5	2	1		4		河口					
28			ヌマチチフ	7	9	6	3	9	10	両側	都:留				
29			チチフ					1		河口	都:留				
30			トウヨシノボリ類				1			不明					
31			ウロハゼ						2	河口					
32			ウキウリ							両側					
33			カムルチー						1	淡水		国外			
合計				9目14科33種	14種	16種	6種	6種	7種	4種	13種	13種	-	8種	10種
					19種		10種		8種						
							14種								

注) 1. 種名および分類は、『河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和2年度生物リスト 河川環境データベース』(国土交通省、令和2年)に準拠しています。なお、これまでトウヨシノボリ類、トウヨシノボリ(型不明)などとしていたものは、ヨシノボリ属として扱っています。

- 表中の数字は確認個体数を示しています。
- 生活型 加納ほか(2000)を参考に、以下のとおり区分しています。
 淡水: 淡水魚(生活史を淡水域で完結する種) 遡河: 遡河回遊魚(産卵のために河川に遡上する種)
 降河: 降河回遊魚(産卵のために海へ下る種) 両側: 両側回遊魚(生活史の一時を海域で過ごす種)
 河口: 河口魚(河口域で全生活史をほぼ完結する種) 海水: 海水魚(海域で産卵を行う種であり、基本的には河川淡水域では成長しない。)
- 重要種(赤色で示した種)** なお、国内外来種に該当する種は()内に示し、集計から外しています。
 国:EN...環境省RL(2020)の絶滅危惧ⅠB類、 国:VU...環境省RL(2020)の絶滅危惧Ⅱ類、 国:DD...環境省RL(2020)の情報不足
 都:CR+EN...東京都RDB(2013)区部における絶滅危惧Ⅰ類、 都:VU...東京都RDB(2013)区部における絶滅危惧Ⅱ類、
 都:NT...東京都RDB(2013)区部における準絶滅危惧、 都:留...東京都RDB(2013)区部における留意種
- 国外外来種(青色で示した種)** 特定...特定外来生物、 国外...特定外来生物以外の国外外来種
- 国内外来種または飼育品種(紫色で示した種)** 国内...国内外来種(国内の他の地域から人為的に移入された種)、品種...飼育品種

令和2年度調査 底生動物確認種一覧

調査地点	確認種	合計
内匠橋上流付近	ミユラーカイメン、シナカイメン、ジーカイメン属、シマミズウドンゲ(国外)、ヒメタニシ、サカマキガイ(国外)、カワヒバリガイ(特定)、シジミ属、ヤマトカワゴカイ、Notomastus属、ウチワミズ属、エラムミズ、ヒメイトミズ属、フトゲユリミズ、ユリミズ、イトミズ亜科、ミズミズ科、ヌマビル、アタマビル、フロリダマミズヨコエビ(国外)、ミズムシ、ミゾレヌマエビ、シナヌマエビ(国外)、テナガエビ(都:留)、スジエビ(都:留)、クロベンケイガニ(都:留)、アメンボ、トガリアメンボ(国外)、ケシカタビロアメンボ、チョウバエ科、ユスリカ属、ユスリカ亜科、ミギワバエ科、イエバエ科、チビゲンゴロウ、チャミドロコケムシ	36種類
桑袋ビオトープ公園付近	ミユラーカイメン、ジーカイメン属、タンシカイメン科、エダヒドラ属、ヒメタニシ、カワヒバリガイ(特定)、ヌマガイ、タイワンシジミ(国外)、シジミ属、ヤマトカワゴカイ、ヒメミズミズ科、ウチワミズ属、エラムミズ、ヒメイトミズ属、フトゲユリミズ、ユリミズ、イトミズ亜科、ミズミズ科、ミズムシ、テナガエビ(都:留)、スジエビ(都:留)、クロベンケイガニ(都:留)、モクスガニ(都:留)、フタバカゲロウ属、クロイトトンボ属、アメンボ、ヒメアメンボ、メミズムシ、ナミヒメガガンボ属、チョウバエ科、ヌカカ科、ダンダラヒメユスリカ属、モンユスリカ属、ツヤユスリカ属、ユスリカ属、ホソユスリカ属、ハモンユスリカ属、カ科、ミギワバエ科、チビゲンゴロウ、キイロヒラタガムシ、オオマリコケムシ(国外)	42種類

重要種(赤色で示した種) 都:留...東京都RDB(2013)区部における留意種
外来種(青色で示した種) 特定...特定外来生物、 国外...特定外来生物以外の国外外来種